

## 四国圏域生態系ネットワークの推進状況及び各地域の関連する取組

---

## 四国圏域生態系ネットワークの経緯・経過

- 近年、四国の各地で、地域の自然環境の豊かさを示す存在であるコウノトリやナベヅル・マナヅル等の飛来が多くなりつつあることから、四国が一つとなった「魅力的な四国づくり」の実現に向けた生態系ネットワークの形成が進められています。2018年2月に「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立され、各流域・地域レベルにおいても協議会・ワーキングが設立・設置されて、多様な主体が連携・協働しながら具体的な取組を行っています。

		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)								
圏域／流域の空間スケールに応じた生態系ネットワークの形成	四国圏域	四国圏域の全体構想の検討・策定、圏域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会				・第2回協議会 全体構想の策定		・第3回協議会		・第4回協議会 (書面開催)		・第5回協議会		・第6回協議会		・第7回協議会	
	徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2018年2月5日設立】	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会				・第2回協議会 全体構想の策定		・第3回協議会		・第4回協議会 (書面開催)		・第5回協議会		・第6回協議会		・第7回協議会	
	吉野川流域	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会				・第2回協議会 全体構想の策定		・第3回協議会		・第4回協議会 (書面開催)		・第5回協議会		・第6回協議会		・第7回協議会	
	徳島県流域	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会				・第2回協議会 全体構想の策定		・第3回協議会		・第4回協議会 (書面開催)		・第5回協議会		・第6回協議会		・第7回協議会	
	鳴門地区生息環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】	旧吉野川での自然再生によるコウノトリの生息環境づくりの検討 ・第1～2回会議				・第3～4回会議		・第5～6回会議		・第7～8回会議							
	旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング 【2023年6月6日設置】									旧吉野川の自然再生地の管理運営の検討 ・第1～3回会議							
	旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング 【2024年1月31日設置】									旧吉野川の自然再生地の整備・利活用の検討 ・第1回会議		・第2回会議					
	鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】					コウノトリ営巣地周辺での地域・人づくりの検討 ・第1～2回会議		・第3～4回会議		・第5～6回会議		・第7～8回会議		・第9回会議		・第10回会議	
四万十川流域	四万十川流域での取組状況等の共有・今後の方針の検討 ・第1回協議会				・第2回協議会		・第3回協議会		・第4回協議会		・第5回協議会		・第6回協議会				
四万十川流域	具体的な取組の検討・実施 ・第1～4回会議				・第5～8回会議		・第9～12回会議		・第13～15回会議		・第16～18回会議		・第19～21回会議				

## 四国圏域生態系ネットワーク形成の取組

- 四国では、2018年2月に「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、コウノトリ・ツル類を広域指標とした生態系ネットワークの形成による「魅力的な四国づくり」の実現に向けて、取組を進めています。

**四国圏域生態系ネットワーク形成の目的：**「四国圏域生態系ネットワーク全体構想」（2019年2月）

- 1 コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生に基づく四国全域における生態系ネットワークの形成
- 2 コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた四国全域における地域活性化及び経済振興の実現

### これまでの四国圏域生態系ネットワーク協議会の会議

年度	開催日	会議
2017年度 (平成29年度)	2018/2/5	第1回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 [会議] ⇒協議会を設立。コウノトリ・ツル類を広域指標とした生態系ネットワークの目標・展開方針（案）に関して意見交換を行った。
2018年度 (平成30年度)	2019/2/4	第2回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 ⇒四国圏域生態系ネットワーク全体構想（案）に関する意見交換を行い、承認された。
2019年度 (令和元年度)	2020/2/3	第3回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 [会議・現地視察] ⇒徳島県鳴門市で開催し、コウノトリの営巣地周辺の現地視察を行い、生息環境づくりや地域・人づくりの取組に関して意見交換を行った。
2020年度 (令和2年度)		新型コロナウイルス感染症の影響により延期
2021年度 (令和3年度)	書面開催	第4回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 [書面] ⇒書面により、各地域での取組情報及び意見を共有した。
2022年度 (令和4年度)	2022/11/24 11/25	第5回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 [会議・現地視察] ⇒高知県四万十市で開催し、ツル類の飛来地の現地視察を行い、ツル類のねぐら環境の整備等に関して意見交換を行った。
2023年度 (令和5年度)	2023/12/13 12/14	第6回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 [会議・現地視察] ⇒愛媛県西予市で開催し、ツル類の飛来地の現地視察を行い、生息環境づくりや見守り活動等に関して意見交換を行った。

## 第6回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会の概要

- 第6回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会（2023年12月13日開催）では、「土器川でのコウノトリの採食場の確保」「関係機関の連携・情報共有」「取組の進捗状況の整理と対外的な情報発信の検討」などの指摘がありました。協議会での指摘を踏まえ、取組を進めています。

### 第6回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会での主な指摘

- ◇2023年に、様々な主体の協力を得て、まんの町でコウノトリ1羽が巣立った。今後も、まんのう町でコウノトリが繁殖に成功するためには、繁殖期の食物の確保が重要である。土器川で、小魚などが多数生息できる環境をつくれれば、繁殖期の採食場を確保でき、コウノトリの巣立ち羽数も増やしていくことができる。
- ◇今回の協議会では、農林水産省、環境省から情報提供をいただいた。両省ともに、生態系ネットワークを支えていくうえで非常に重要なので、今後の協議会でも、情報提供をいただきたい。
- ◇四国圏域生態系ネットワーク推進協議会の設立から7年目になり、取組の進捗状況を整理する時期になっている。関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会では、2023年度に設立10周年を迎えて、2030年目標に向けた展望を話し合うシンポジウムが開催された。本協議会でも設立10周年を迎える頃に、シンポジウムを開催してもよいのではないか。
- ◇ツル類の主な越冬地である鹿児島県出水市で、鳥インフルエンザが発生したときの受け皿となるように、越冬環境づくりに取り組んできて、四万十市でも、ようやくツル類が越冬するようになってきた。今後、四国全体を新しい越冬地とするような取組ができるとよい。そのために、四国全体のツル類の飛来状況を共有できる仕組みがあると助かる。



### 今年度の主な取組

#### 新たな流域・地域での生態系ネットワーク形成の検討

- ◇土器川、加茂川・中山川を基軸とした生態系ネットワーク形成に向けて、関係機関と情報共有・意見交換を行った。

#### 関係機関との連携

- ◇関係機関とのさらなる連携を図るために、四国ツーリズム創造機構、四国経済連合会、JR四国と情報共有・意見交換を行った。

#### 取組の進捗状況の整理と対外的な情報発信の検討

- ◇四国圏域生態系ネットワーク形成の取組の進捗状況を整理し、シンポジウムの企画（案）を作成した。

## 日本国内のコウノトリ・ツル類の生息の現況

- コウノトリは、保護増殖と放鳥が進められ、日本国内の野外個体数が2024年に400羽を超え、繁殖地も増加しています。一方で、人為的な要因による事故の発生も増えており、対策が必要となっています。
- ツル類は、鹿児島県出水市に大規模な越冬地があります。しかし、一地域に集中して越冬しているため、大量死を招くリスクがあり、新たな越冬地の形成に向けた取組を進めることが必要となっています。

### 日本国内のコウノトリの生息の現況



- ◇1971年に日本の野生コウノトリは絶滅したが、その後、兵庫県豊岡市でコウノトリの保護増殖と放鳥が進められた。現在、国内の野外コウノトリは順調に増加が見られ、2024年に400羽を超え、2024年11月30日現在で野外個体数は463羽となっている（兵庫県立コウノトリの郷公園の公表資料）。国内繁殖地も拡がりが見られ、2024年には、全国14府県51巣（四国では徳島県鳴門市1巣、香川県まんのう町1巣）から134個体の幼鳥が巣立った。
- ◇コウノトリの野外個体数が増加する一方で、防獣ネットや防鳥用テグスへの絡まり、送電線での感電など、事故に遭い死亡したり、救護されたりするケースも増えてきている。

### 日本国内のツル類（ナベヅル・マナヅル）の生息の現況



- ◇かつては日本国内の各地にナベヅル・マナヅルの越冬地があったが、その多くは消滅している。鹿児島県出水地方では、保護区の設置、給餌等の長年の努力により、1万羽以上のナベヅル・マナヅル等のツル類が越冬している。今期も10,928羽のツル類が出水市内へ渡来している（2024年12月21日時点）。
- ◇出水市でのツル類の集中は、感染症等の発生時に大量死を招くリスクがある。2022年度には、ツル類が高病原性鳥インフルエンザに感染し、1,500羽以上が死亡・衰弱し回収・収容された。環境省、鹿児島県及び出水市は、ツル類の分散化を図る一手段として、出水での給餌量を段階的に削減・調整する取組を2020年度より行っている。

## 四国へのコウノトリの飛来・生息状況（2017年1月～2023年12月）

希少種情報につき取扱い注意

- 2017年～2023年に、コウノトリの飛来は四国4県で確認されており、1ヶ月以上の滞在が確認されている地域もあります。コウノトリの繁殖は、徳島県鳴門市、香川県まんのう町において確認されています。

希少種情報につき、委員のみ

コウノトリの飛来・滞在・繁殖が確認された自治体（2017～2023年）  
「国土数値情報（行政区域データ）」（国土交通省）、「国土数値情報（河川ラインデータ）」（国土交通省）をもとに作成

## 四国へのコウノトリの飛来・生息状況（2024年1月～2024年12月）

希少種情報につき取扱い注意

- 2024年に、四国4県へコウノトリが飛来しており、徳島県鳴門市、香川県まんのう町でコウノトリが繁殖に成功しました。徳島県鳴門市では、2024年6月にコウノトリ1ペアの巣から4羽のひなの巣立ちが確認され、2017年から8年連続の繁殖成功となりました。香川県まんのう町では、2024年7月にコウノトリ1ペアの巣から3羽のひなの巣立ちが確認され、2023年から2年連続の繁殖成功となりました。

希少種情報につき、委員のみ

## 四国へのツル類の飛来・生息状況（2017年10月～2024年3月）

希少種情報につき取扱い注意

- 2017年度～2023年度に、ツル類（ナベヅル、マナヅル）の飛来は四国4県で確認されており、越冬が確認された地域もあります。また、国が管理している吉野川、那賀川、肱川、物部川、四万十川の河川区域の砂州をツル類がねぐらとして利用したことが確認されています。

希少種情報につき、委員のみ

## 四国へのツル類の飛来・生息状況（2023年10月～2024年3月）

希少種情報につき取扱い注意

- 2023年度に、四国4県（那賀川・肱川・物部川・四万十川の各流域のほか、徳島県海陽町、香川県綾川町、愛媛県西条市など）でナベヅルの飛来が確認されました。徳島県小松島市・阿南市で6羽、愛媛県西予市で4羽、高知県四万十市で3羽のナベヅルの越冬が確認されました。

希少種情報につき、委員のみ

## 四国へのツル類の飛来・生息状況（2024年10月～2025年1月）

希少種情報につき取扱い注意

- 今期（2024年10月～2025年1月）は、香川県、愛媛県、高知県でツル類（ナベヅル・マナヅル）の飛来が確認されています。香川県綾川町ではナベヅル2羽、愛媛県西予市ではナベヅル16羽、マナヅル3羽の越冬が確認されました。

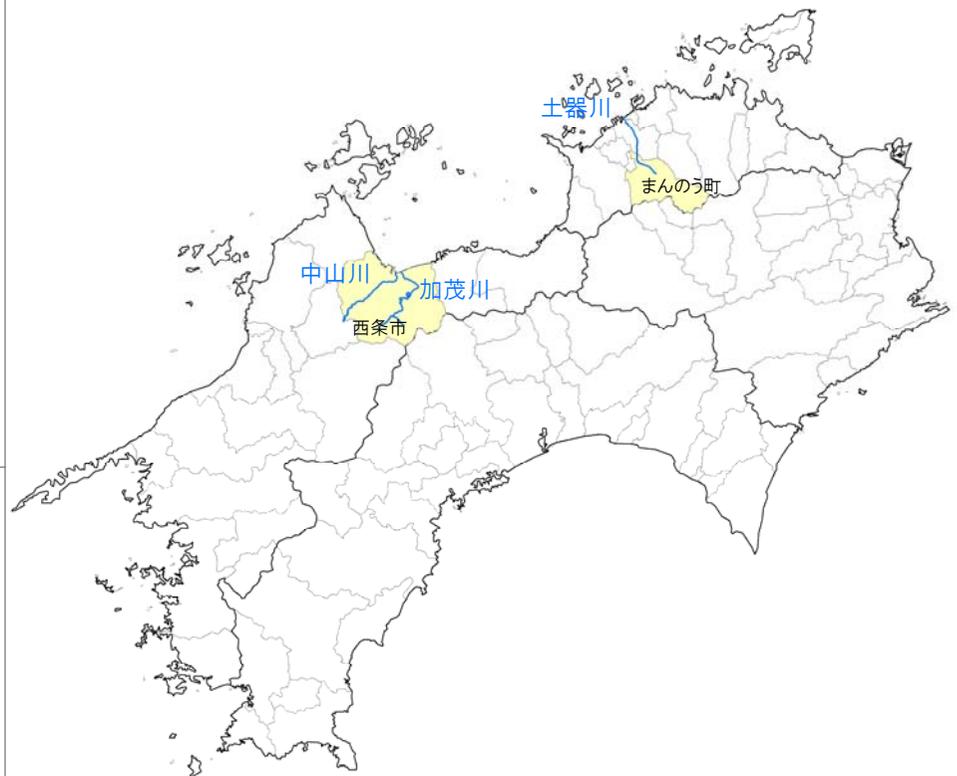
希少種情報につき、委員のみ

## 新たな流域・地域での生態系ネットワーク形成の検討

- 土器川流域では、まんのう町において2023年からコウノトリが繁殖に成功している。また、加茂川・中山川流域では、西条市においてコウノトリの滞在やツル類の越冬の記録がある。そのため、土器川、加茂川・中山川での河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて、河川管理者・自治体との情報共有・意見交換を行った。

### 情報共有・意見交換

土 器 川	<p>◇土器川の河川管理者（香川河川国道事務所、香川県土木部）及びまんのう町と情報共有・意見交換を行った。</p> <p><b>【香川河川国道事務所】</b> →土器川（国管理区間）で、コウノトリの採食場を含めた湿地環境の創出の検討を進めている。</p> <p><b>【香川県土木部】</b> →土器川（県管理区間）では、河道掘削や樹木伐採などの管理が必要である。これらと合わせて、コウノトリの採食環境を創出できる可能性があることが参考になった。</p> <p><b>【まんのう町】</b> →地域住民が中心となり、町役場も連携しながら、コウノトリの定着・繁殖のための取組が継続して行われている。</p>
加 茂 川 ・ 中 山 川	<p>◇加茂川・中山川の河川管理者（愛媛県土木部）及び西条市と情報共有・意見交換を行った。</p> <p><b>【愛媛県土木部】</b> →県内の他の河川にも対象を広げて、国土交通省も参画する枠組みができれば、その中の一員として協力したい。</p> <p><b>【西条市】</b> →西条市では、コウノトリ・ツル類の飛来情報を収集しており、市民からも情報が寄せられている。また、コウノトリ・ツル類が利用した記録のある加茂川・中山川の河口干潟で、市主催の自然観察会や生きもの調査を行っている。</p>



「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)をもとに作成

## 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

---

## 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

- 2017年10月に、吉野川流域を対象として「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を設立した。その後、コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来していること、また、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内での関連する取組について、情報共有・連携を図ることを目的として、2021年1月に、徳島県全域を対象とした「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」へと発展移行した。



対象区域

「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」は、当初対象としていた吉野川流域（赤着色部）に加え、那賀川流域（黄着色部）と県管理河川等の流域（緑着色部）を加えた徳島県全域を対象としている

「国土数値情報（行政区域データ、河川データ）」（国土交通省）(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)を加工して作成

# 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

## 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

開催回数：年1回程度

構成：学識者／市町長／行政／関係団体等

主な役割：流域全体構想の策定・推進・更新

### 鳴門地区生息環境づくりワーキング

設置：2018年11月27日 解散：2023年1月10日

旧吉野川津慈地区河川整備事業地の湿地環境が担う役割や、基本的な構造条件を検討し、整理した。

### 旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング

設置：2023年6月6日 休止：2023年11月16日～

旧吉野川津慈地区河川整備事業地への民間活力の導入を検討した。サウンディング調査を実施したが、直接的な資金や人材に関する提案は得られなかった。本事業地の湿地創出のイメージができた段階で、再度サウンディング調査を実施予定であるため、本ワーキングは次期サウンディング調査まで休止としている。

### 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング

設置：2024年1月31日

旧吉野川津慈地区河川整備事業地のよりよい湿地環境の創出並びに活用や管理運営の具体化を検討する。

### 鳴門地区地域・人づくりワーキング

設置：2019年9月30日

鳴門市における魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進や地域の課題について検討している。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会構成員	
学識者	武藤裕則 氏(徳島大学理工学部 部長) ◆会長
	鎌田磨人 氏(徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授)
	河口洋一 氏(徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授)
	柴折史昭 氏(認定NPO法人とくしまコウノトリ基金 事務局長)
市町長	大田直友 氏(阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 教授)
	徳島市長
	鳴門市長
	阿南市長
	小松島市長
行政	藍住町長
	環境省 中国四国地方環境事務所 野生生物課 課長
	徳島県生活環境部 部長
	徳島県農林水産部 部長
	徳島県観光スポーツ文化部 部長
	徳島県国土整備部 部長
	国土交通省 徳島河川国道事務所 事務所長
	国土交通省 那賀川河川事務所 事務所長
	株式会社阿波銀行 常務取締役
	一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 協議会長
団体等 (50音順)	コウノトリ定着推進連絡協議会 会長
	四国電力送配電株式会社 徳島支社 ネットワークサービス部長
	四国放送株式会社 取締役・報道制作局長
	四国旅客鉄道株式会社 徳島企画部 部長
	徳島希少鳥類研究会 代表
	株式会社徳島大正銀行 法人推進部 部長
	一般財団法人徳島県観光協会 理事長
	徳島県農業協同組合中央会 専務理事
	認定NPO法人とくしまコウノトリ基金 理事長
	公益財団法人とくしま産業振興機構 理事長
	一般社団法人徳島新聞社 理事 経営戦略局長
	一般財団法人日亜ふるさと振興財団 理事 事務局長
	日本ビオトープ管理士会徳島支部 理事
日本野鳥の会徳島県支部 支部長	
吉野川交流推進会議 会長	
オブザーバー	農林水産省 中国四国農政局

2025年2月3日時点

## 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の報告

- 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会では、コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策の検討と取組の推進について検討を行っている。2025年2月3日に「第5回徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を開催し、取組状況の報告と短期目標に対する取組の進捗及び今後の課題について意見交換を行った。

### 開催概要

◇日時 2025年2月3日 14:00～16:00

#### ◇主な内容

- ・規約について
- ・徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークの取組状況について
- ・短期目標に対する取組の進捗及び今後の課題について

#### ◇報告・検討事項

- ・これまでオブザーバーとして参加していた環境省中国四国地方環境事務所が委員になった。
- ・徳島河川国道事務所、那賀川河川事務所、鳴門市、小松島市、認定NPO法人とくしまコウノトリ基金から取組が報告された。また、環境省から自然共生サイトについての情報が共有された。
- ・生息環境づくり及び地域・人づくりの取組について、現状と課題を整理し、短期目標の達成に向けた2025年度の取組（案）について意見交換を行った。

#### ◇主な意見

- ・2025年2月1日に、高速道路でのコウノトリの死亡事故が発生した。鳴門市大津町のレンコン田は、おそらく全国でコウノトリの生息密度が最も高い場所になっており、今後も事故の発生が懸念される。対応策を検討することが必要である。
- ・鳴門市で取り組まれているビオトープの整備箇所や小松島市の有機農業の取組地域も、OECMに登録できる可能性がある。自然共生サイトへの登録を、環境省に後押ししてもらえるとよい。
- ・農林水産省の多面的機能支払交付金も活用しながら、取組を進めていけるとよい。
- ・コウノトリがくらす環境で育てられた農産物や食をアピールしていくことが重要であると思う。



協議会の開催の様子

## 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキングの報告

- 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキングでは、旧吉野川津慈地区のよりよい湿地環境の創出並びに利活用や管理運営の具体化に向けた検討を行っている。2025年1月21日に「第2回旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング」を開催し、旧吉野川津慈地区河川整備事業地及び旧吉野川で津慈地区以外に河道掘削が予定されている3地区の現地確認を行った。

### 開催概要

◇日時 2025年1月21日 13:00～15:45

### ◇主な内容

- ・ 旧吉野川津慈地区河川整備事業地の現地確認
- ・ 旧吉野川で津慈地区以外に河道掘削が予定されている地区の現地確認

### ◇実施事項

- ・ 旧吉野川津慈地区では、治水対策のための河道掘削が計画されている。周辺にコウノトリの営巣地が位置していることから、河道掘削とあわせて、コウノトリの採食場となるような湿地環境を創出することを目標としている。現在、試験施工を実施中であり、現地確認を行った。
- ・ 旧吉野川では、津慈地区の上下流に位置する勝瑞・川崎地区、乙瀬地区、大寺地区においても、河道掘削が予定されている。これらの3地区の現地確認を行った。

### ◇主な意見

- ・ 津慈地区では、試験施工のモニタリング期間が2年間として設定されている。植生の変化を確認するためには、もう少し長い期間が必要になるのではないかと。
- ・ 津慈地区以外で河道掘削が予定されている地区でも、津慈地区の自然再生を通じて得られた知見を活用しながら、掘削断面等に関して議論ができるとよい。

### 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキングメンバー

河口 洋一	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授
柴折 史昭	認定NPO法人とくしまコウノトリ基金 事務局長
樫本 幸実	日本ビオトープ管理士会徳島支部 理事
東條 秀徳	日本野鳥の会徳島県支部 支部長
谷地森 秀二	横倉山自然の森博物館 学芸員
井藤 大樹	徳島県立博物館 主任
大原 賢二	佐那河内いきものふれあいの里 ネイチャーセンター長
森田 椋也	徳島大学 人と地域共創センター 講師
佐竹 孝文	鳴門市 産業振興部農林水産課 課長
辻 宏人	鳴門市 環境共生部環境政策課 課長
長楽 浩司	藍住町 建設産業課 課長

(2025.1.21時点)



ワーキングの開催の様子

## 鳴門地区地域・人づくりワーキングの報告

- 鳴門地区地域・人づくりワーキングでは、コウノトリが営巣・繁殖した環境を活かした魅力的な地域づくりの実現に向けた情報共有・意見交換を行っている。2024年12月3日に「第10回鳴門地区地域・人づくりワーキング」を開催し、今後の大規模集客イベントを見据えた普及啓発・情報発信に関する意見交換を行った。

### 開催概要

◇日時 2024年12月3日 10:00～11:45

#### ◇主な内容

- ・ 地域・人づくりに関連する取組状況について
- ・ 大規模集客イベントを見据えた普及啓発・情報発信について

#### ◇報告・検討事項

- ・ ワーキングメンバーが主催した観光プログラムやイベントの開催、環境学習の実施、「コウノトリれんこん」の販促等の取組が報告された。
- ・ 普及啓発パネル及び動画を活用した普及啓発・情報発信について、意見交換を行った。
- ・ 鳴門地区のコウノトリや関連する取組の認知度を高めていくために、徳島県外から多くの人々が訪れる大規模集客イベント〔大阪・関西万博（2025年）、ワールドマスターズゲームズ関西（2027年開催予定）、大鳴門橋自転車道の開通（2027年度予定）〕を見据えた普及啓発・情報発信について、意見交換を行った。

#### ◇主な意見

- ・ 今後、徳島県内へも外国人旅行者が増えると考えられる。コウノトリに関する普及啓発・情報発信にあたっては、徳島県内に在住の外国人にヒアリングを行い、外国人の視点を取り入れた方がよい。
- ・ 外国人旅行者にとって一番役立ったものとして地域の観光案内所があげられている。徳島駅前や鳴門駅前の観光案内所と連携して情報発信を行うことを検討できるとよい。

### 鳴門地区地域・人づくりワーキングメンバー（2024.12.3時点）

田村 耕一	（一社）イーストとくしま観光推進機構 協議会長 ◆座長
柴折 史昭	認定NPO法人とくしまコウノトリ基金 事務局長
加守 寛士	（一社）イーストとくしま観光推進機構 事務局次長
渡辺 晃	（一社）ツーリズム徳島 理事
河口 洋一	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授
藤川 浩	JA徳島県 常務理事（徳島北地区担当）
藤井 優希	NPO法人れんこん研究会 理事長
塩崎 桂子	アオアヲナルトリゾート アシスタントセールスマネージャー
天野 裕己	（一社）鳴門市うずしお観光協会 次長
五島 寛治	大麻町商工会 会長
峯 光一	徳島県生活環境部サステナブル社会推進課 主任
井内 泰	徳島県観光スポーツ文化政策課 観光プロモーション担当
大子 正充	鳴門市 産業振興部農林水産課 副課長
戸島 慶祝	鳴門市 産業振興部観光振興課 副課長



ワーキングの開催の様子

# 那賀川流域を主体とした生態系ネットワークの取組

---

那賀川河川事務所

# 那賀川流域の自然環境(魚類・鳥類)

## ■上流域の概要(川口ダム上流)

鳥類ではヤマセミ、カワガラス等が生息し、猛禽類の繁殖も確認されている。また、水域にはアマゴ、アユ、タカハヤ等の魚類が生息しており、支川文ヶ谷川では教育機関や自治体等との協同により地元児童を対象にしたアユの産卵場づくりを実施している。



ヤマセミ



アユ



アマゴ

## ■汽水域の概要(潮止め堰～河口)

河口付近では干満差による干潟が出現し、シオマネキや固有魚などの貴重種が確認されていることから、阿南市生物多様性ホットスポットに選定されている。また、魚類ではマハゼ、ボラ、スズキ等が生息し、鳥類ではシギ、チドリ類等の渡来地となっている。



シオマネキ



シギ・チドリ



マハゼ



スズキ

## ■中流域の概要(川口ダム～十八女橋)

鳥類ではセキレイ類、サギ類等が生息している。また、水域にはアユ、オイカワ、ウグイ等の魚類が生息している。



セキレイ



オイカワ



ウグイ

## ■桑野川の概要

上流の水域には県の天然記念物であるオヤニラミが生息し、中下流域ではヤリタナゴ、ヌマムツ等緩流を好む魚類が多い。



オヤニラミ



ヤリタナゴ

## ■下流域の概要(十八女橋～潮止め堰)

水域にはアユ、ウグイ、サツキマス、ヨシノボリ類等の魚類が生息し、瀬はアユの産卵場となっており、自然再生事業により瀬環境の保全・創出を図るとともに地元小学生によるアユの産卵場づくりを実施している。また、河原にはコアジサシやシロチドリなどの鳥類が生息しており、一部の砂州では、ねぐらをとるナベヅルも確認されている。



コアジサシ



カジカ(小卵型)



ナベヅル



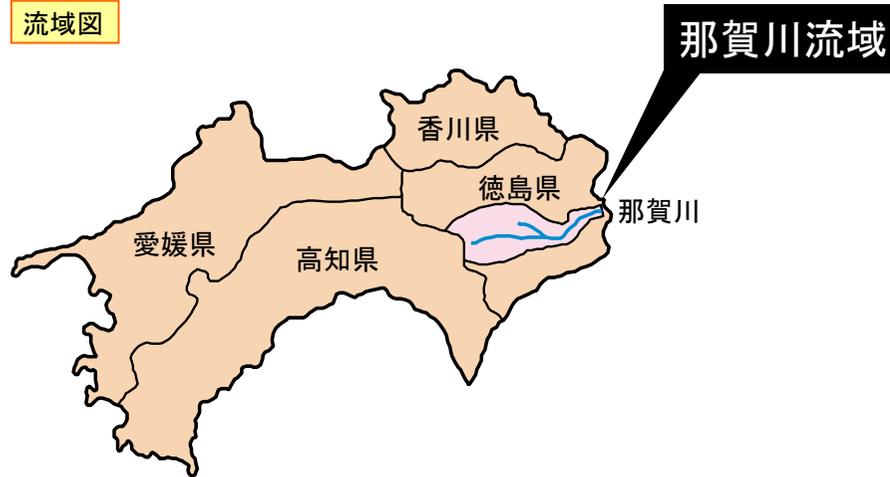
アユ



# 那賀川流域の自然環境(ツル類)

希少種情報につき取扱い注意

流域図



- 四国では、ツル類（主にナベヅル）の飛来記録が吉野川流域、那賀川流域、四万十川流域に集中している。
- 那賀川流域においては、2008年度よりナベヅルの飛来が確認されており、2015年度には34羽、近年では2023年度に最大7羽が飛来し、6羽の越冬が確認されている。
- 那賀川では、周辺の水田で採餌し、河川内の砂州をねぐらとして利用している。

希少種情報につき、委員のみ



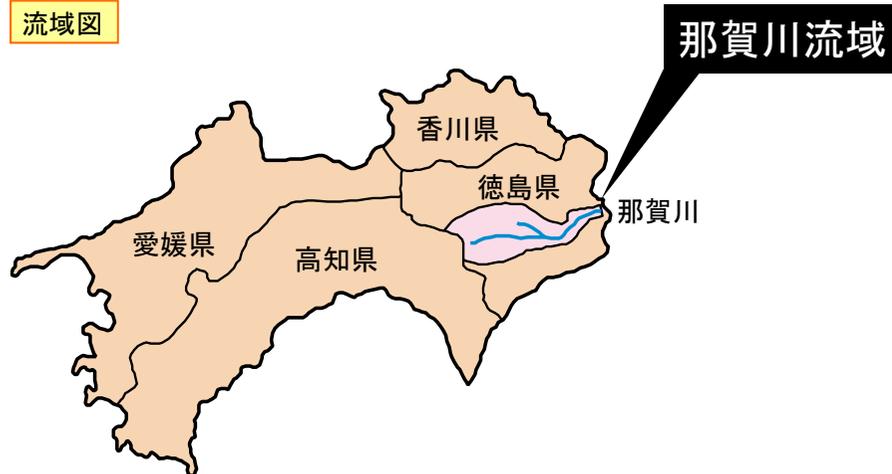
那賀川でねぐらをとるナベヅル（2015年度の越冬時）  
撮影日：2015. 12. 24、写真提供：日本野鳥の会

那賀川流域におけるツル類の飛来状況

# 那賀川流域の自然環境(コウノトリ)

希少種情報につき取扱い注意

流域図



- 四国では、四万十川流域、吉野川流域に集中しているものの、那賀川流域の周辺においても確認記録がある。
- 那賀川流域では、2013年からコウノトリの飛来が確認されており、良好な水田環境が残されていることから、主に周辺の水田地帯へ飛来している。
- 近年では、2022年度に阿南市、小松島市で3羽の飛来が確認されている。

希少種情報につき、委員のみ

## 那賀川流域周辺におけるコウノトリの飛来状況

コウノトリのGPSデータは福井県エネルギー環境部自然環境課と千葉県野田市みどり水のまちづくり課に放鳥されたコウノトリのGPSデータの利用申請を行い、データを取得した。



環境保全型農業に取り組む水田に飛来したコウノトリ  
[徳島県小松島市]  
写真提供：小松島市

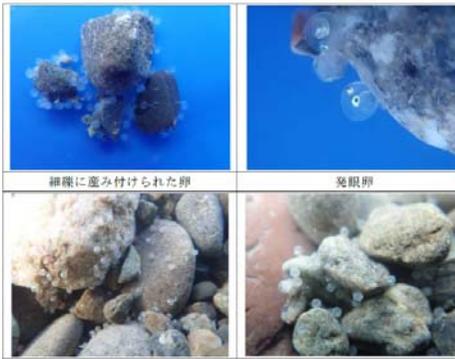
# 那賀川流域の自然環境(アユ)

- 那賀川では古くからアユ漁業が盛んであり、那賀川を代表する水産資源である。
- 近年では、水質・河床材料の変化による餌環境の悪化や生息場・産卵場となる瀬の減少が課題となっており、アユの産卵が減少している。
- そのため「那賀川自然再生事業」では下流域を中心に、河床整正及び床止工を設置することで、アユ産卵場となる瀬環境の維持・創出に努めている。
- また、上流域においても徳島大学や自治体、地元小学校等が連携した、アユの産卵場づくりが進められている。



## ■アユの産卵場調査(下流域)

### アユの産卵状況



令和6年度のモニタリング調査により、阿南市羽ノ浦町岩脇地区～イコス堰区間において複数のアユの産卵場を確認。

## ■アユの産卵場づくり(上流域)



写真提供: 徳島大学河口准教授

# 那賀川流域を主体とした生態系ネットワーク

徳島県では、多様な主体が連携・協働し、コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策の検討と取組の推進を目的とした協議会が設置されており、規約第7条（地域ワーキング）に基づき、**那賀川流域を対象に地域の課題に関する検討を行うワーキングを設置**する。

## 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

- 指標種：コウノトリ・ツル類
- 事務局：徳島河川国道事務所・那賀川河川事務所・徳島県

- 「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」の委員を中心に、**コウノトリ・ツルの飛来地**である県内自治体首長が参加。
- 吉野川流域・那賀川流域等の県内他流域を加えた、「**徳島県流域生態系ネットワーク全体構想**」を策定。



### 専門部会

「地域・人づくり」  
「生息環境づくり」

・地域ワーキングでの検討及び事業実施における専門的知見からの支援

支援

### 地域ワーキング(各流域において複数の設置を目指す)

徳島河川国道事務所

鳴門地区地域ワーキング

先行モデル

・事業を具体的に推進するために、地域の課題に関する検討を行うために複数のワーキングを設置。

- 鳴門地区地域・人づくりワーキング
- 旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング
- 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング

那賀川河川事務所

### 那賀川流域地域ワーキング検討会

・那賀川流域生態系ネットワークは、鳴門地区と同様に、上部組織である徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の地域ワーキングとして位置づけ、生態系ネットワークの形成を図る。

# 那賀川流域生態系ネットワークの取組範囲の検討

## 那賀川流域生態系ネットワークの取組範囲

鳥類については阿南市及び周辺地域である小松島市において、ナベヅルの飛来・越冬やコウノトリの飛来が確認されている。

魚類について那賀川下流(阿南市)では、多くの天然アユが遡上していることが確認されており、那賀川上流(那賀町)では、陸封アユが確認され、全国各地のアユが参加する清流めぐり利きアユ会において準グランプリを獲得した実績がある。

以上の理由により、那賀川及び桑野川流域及び周辺地域(小松島市を含む)を対象地域として想定する。



# 指標種・シンボル候補(案)

## 指標種・シンボルの設定意義について

- ・生態系ネットワークの形成の取組には多様な主体との連携が不可欠。
- ・多様な主体との連携を進めるうえで、流域住民の理解・共感が得られる象徴的な生きものを指標種・シンボルとして設定することで、取組の方向性や、取組で目指すゴール（状態）を関係者が共有しやすくなる。

## 指標種・シンボルについて（鳥類）

- ・河川の流域や、流域間、さらに広域を移動する鳥類は、生態系の広域的なつながりを指標する。
- ・中でも大型水鳥類は、里地里山や河川の生態ピラミッドの頂点に立つ高次消費者や、生物多様性を示すアンブレラ種で、その地域に生息することが、「食物となる多くの生きものを育む豊かな自然環境がある証」になる。また、姿かたちが優美であるなど、多くの人々に取組の効果を実感してもらいやすい。



生態ピラミッド

種名	生態	主な生息場所	指標種候補とした理由
<p><b>コウノトリ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留鳥</li> <li>・魚類（ドジョウ、コイ、フナ等）、両生類（カエル）、昆虫類（バッタ、コウチュウ）、貝類、甲殻類（ザリガニ）等を採食。</li> </ul>	<p>水田、池沼、湖沼、河川、湿地等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流域内の採食・ねぐら・営巣環境の適切な配置を指標する。</li> <li>・那賀川流域への飛来・生息が確認されている。</li> </ul>
<p><b>ナベヅル</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬鳥（秋・冬に西南日本等で越冬）</li> <li>・植物（種子・根茎・葉）、昆虫、魚類を採食。</li> </ul>	<p>水田、湿地、河川、海岸、干潟等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流域内の採食・ねぐら環境の適切な配置を指標する。</li> <li>・那賀川の砂州でねぐらを取り、周辺の田んぼで採食する姿が観察されている。</li> </ul>

# 指標種・シンボル候補(案)

## 指標種・シンボルについて（魚類）

- ・回遊性のある魚類などの水生生物は、河川の上・中・下流や支川・水路・水田・池沼などの流域内の水域のつながりを指標する。
- ・水生生物のなかでも、地域の歴史・文化・生活との関わりなどが顕著な種は、地域における取組のシンボルとなりえる。

種名	生態 ※1、※2	主な生息場所 ※1	指標種候補とした理由
<b>アユ</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋に生まれた仔稚魚は海に下って越冬し、翌春に再び河川に遡上する。</li> <li>・仔稚魚は動物プランクトン食性、成魚は付着藻類食性である。</li> </ul>	河川の上・中流域や湖・ダム湖	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遡上・降下するため、河川の縦断方向の連続性を指標する。</li> <li>・那賀川における漁業、遊漁の対象となっている。</li> <li>・那賀川本川、桑野川の国管理区間で生息が確認されている。※3</li> </ul>

※1 細谷和海ら（2019）「山溪ハンディ図鑑 増補改訂 日本の淡水魚」

※2 リバーフロント整備センター（1996）「川の生物図典」

※3 令和3年度那賀川・長安口ダム水辺現地調査（魚類）外業務報告書（2022年5月）

## 指那賀川流域における生態系ネットワークの指標種・シンボル

以上の点から、那賀川流域における生態系ネットワークの指標種・シンボルの候補を以下とした。

指標する連結性・環境	指標種・シンボル
広域的なつながり	コウノトリ・ツル類
河川の縦断的なつながり	アユ

# 地域ワーキング検討会設置に向けた今後の動き

令和6年度：那賀川流域地域ワーキング準備会（令和6年12月17日設置）

- ・ 那賀川流域地域ワーキング検討会の立ち上げに向け、自治体・学識者により方針・構成員等について検討中。

※：現在実施中

令和7年度：那賀川流域地域ワーキング検討会、コアワーキング設置予定

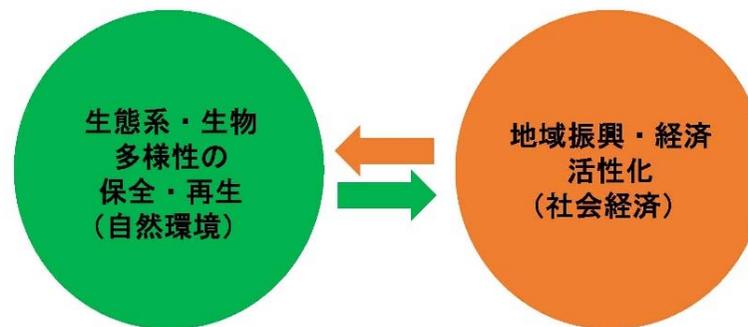
## ■那賀川流域地域ワーキング検討会

- ・ 各コアワーキングにおける流域での取組内容を決定する。

## ■コアワーキング

- ・ ツル類・コウノトリ、アユを対象にそれぞれの現状や課題を具体的に協議し、流域での取組内容を検討する。

多様な主体の連携のもと、生物多様性の保全に向けた取組を推進することにより地域の魅力・活力の向上を図り、**地域活性化**を目指す。



出典：「河川を基軸とした生態系ネットワーク形成のための手引き（河川管理者向け）（案）」  
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 R02.2

## 四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組

---

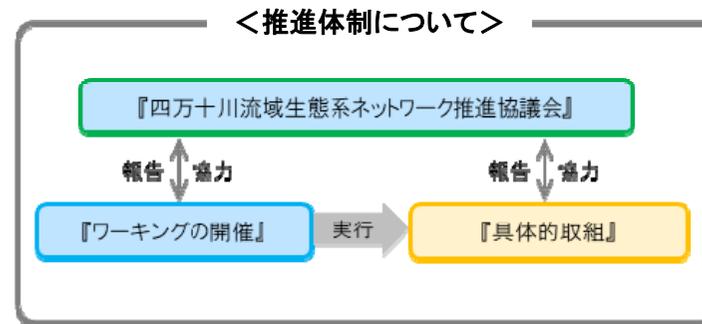
# 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会（2019年12月設立）では、ツル類を指標種に設定し、2021年度に四万十川流域生態系ネットワーク全体構想を策定しました。全体構想では、2050年を到達目標として、短期目標、中期目標を設定しています。現在は、短期目標の達成に向けて、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）」を策定し、具体的な取組を進めています。



「第5回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」の開催の様子

協議会構成員
四万十市 市長
四万十市教育委員会 教育長
四万十市区長会 会長
中村商工会議所 会頭
一般社団法人四万十市観光協会 会長
一般社団法人中村青年会議所 理事長
四万十つるの里づくりの会 会長
四万十川自然再生協議会 会長
高知野鳥の会 会長
国土交通省 中村河川国道事務所 所長



## 四万十川流域生態系ネットワーク形成の目的

- 1 ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- 2 ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

短期目標（～2025年）	中期目標（～2030年）	到達目標（～2050年）
<p><b>ツル類の安定した越冬環境づくり</b></p> <p>これまで取組が行われてきた江ノ村地区、ツル類の飛来実績が多い森沢・間地区において、農業者の理解、協力を得て、冬期湛水等のねぐら環境の創出や、二番穂の確保等の採食環境の創出が行われている。</p> <p>また、地域住民等の理解、協力を得て、ツル類への人為的なストレスが低減されている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域で越冬できるツル類の個体数が増えている。</p>	<p>江ノ村地区、森沢・間地区において、ねぐら環境・採食環境の創出、人の利用の調整が、ツル類を活かした農業振興や観光振興も相まって、継続されている。</p> <p>また、流域内のツル類の生息ポテンシャルが高い地区でも、農業者や地域住民等の理解・協力を得ながら、生息環境づくりが進められている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域でさらに多くのツル類が越冬できるようになっている。</p>	<p>四万十川流域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、「宝」である生態系と歴史・文化・伝統を活かした産業が営まれている。</p> <p>ツル類を指標とした四万十川流域での取組から、幅多地域の生態系ネットワーク形成へ取組が展開されている。</p>
<p><b>ツル類を活かした地域・人づくり</b></p> <p>江ノ村地区や森沢・間地区において、農業者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が進められている。</p> <p>地域住民等の理解、協力を得ながら、観光利用でのルールの設定や受け入れ体制の構築が行われ、来訪者の受け入れが始められている。</p> <p>地域内外への情報発信や普及啓発の継続により、四万十川流域の「つるの里」としての認知度が上がっている。</p>	<p>ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が継続して取り組まれ、地域内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。</p> <p>地域の事業者等との連携・協働により、ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。</p> <p>地域内の多様な主体が参加・協働する取組になるとともに、地域外の人や組織との連携・協働が進み、地域の関係人口が増えている。</p>	

# 四万十川流域におけるツル類の飛来状況

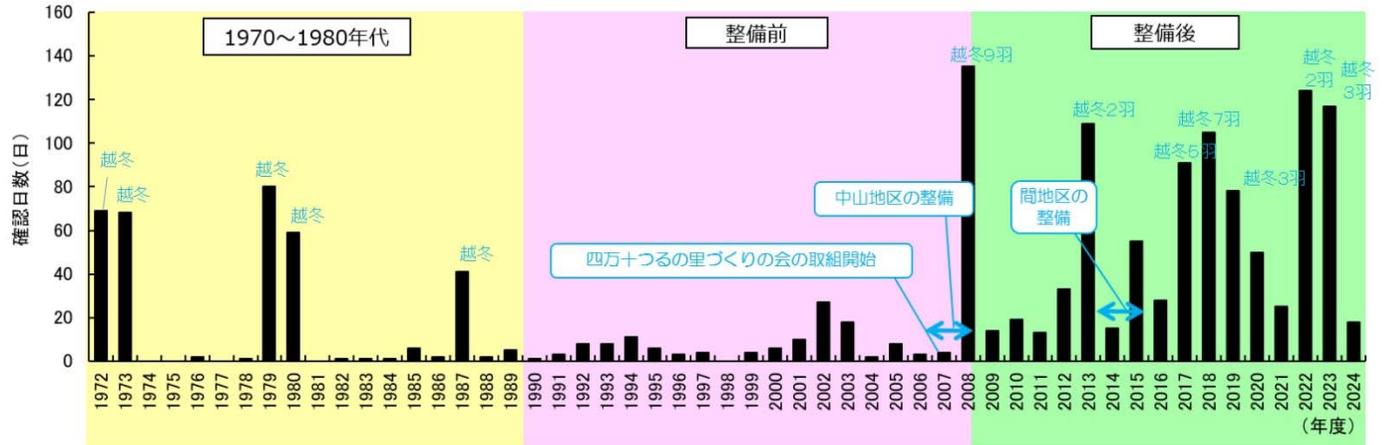
四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」の取組が行われています。取組を開始してから四万十市内におけるツル類の確認日数、越冬頻度は増加しています。しかし、飛来するツル類に対し、越冬個体数は未だ少ない状況にあります。

最近では2022年度にナベヅル2羽、2023年度にナベヅル3羽が越冬しましたが、2021年度や2024年度のように確認日数も少なく越冬個体もない年度もまだあります。

なお、四万十つるの里づくりの会では、越冬の定義を12月に10日以上かつ翌年1月に10日以上確認した場合と定めています。



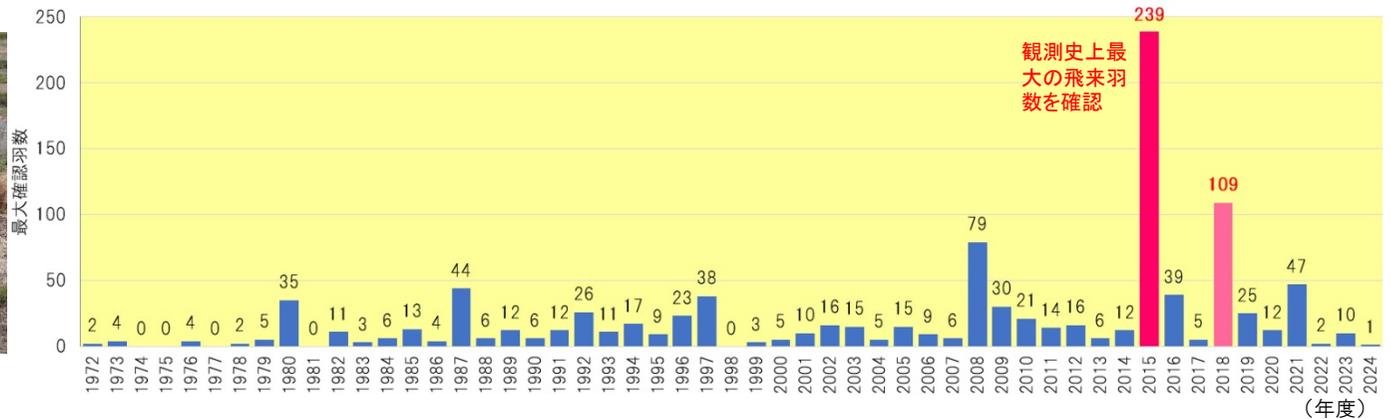
河道内にツル類の暮らせる環境を整備した中山箇所にて2013年度に越冬したマナヅル2羽



四万十市におけるツル類の確認日数の推移  
※2024年度は2025年1月6日時点の記録



観測史上最大数が飛来した2015年度のナベヅルの状況



四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移  
※2024年度は2025年1月6日時点の記録

## 取組内容：自然再生事業でのねぐら環境の整備

四万十川流域においてはツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加しているものの、主要なねぐらである四万十川の砂州周辺での落ちアユ漁、狩猟等の影響により、11月中旬以降には他地域へ飛び去る個体が増加し、越冬に至る個体数は極めて少ない状況です。そのため、複数のねぐら環境をつくることで、越冬個体数を増やそうとしています。四万十川自然再生事業では、ツルがより利用しやすいねぐら環境の整備を進めています。

○中山箇所:8月に完成



○森沢箇所:今年度予定していた工事は完了済  
網掛け部分については今後施工予定



## 取組内容：堤内地での代替ねぐらの確保

希少種情報につき取扱い注意

地域の方々と協働・連携して「ツルの里づくり」の取組を進めています。堤内地の田んぼで冬期に水を張ることによって、代替ねぐら環境をつくっています。2024年度は、江ノ村箇所①でナベツルのねぐら利用が確認され、効果が認められました。今年度も、江ノ村箇所①、実崎箇所の2箇所で取組を行いました。



2024年度の江ノ村箇所①の水張りとデコイ設置の状況  
(2024年11月12日撮影)



江ノ村箇所①に飛来したナベツル1羽  
(2024年11月30日撮影)

希少種情報につき、委員のみ

2024年度の代替ねぐら環境の創出箇所

ツル類の利用状況を確認するために、自動撮影カメラを設置してモニタリングを行っています。

## 取組内容：人の利用の調整

「四万十ツルの観察マナー」を周知するため、四万十市と連携した情報発信を行いました。過年度から引き続き、広報しまんとに掲載いただいたほか、今年度から新たに四万十市のウェブサイトやLINEでの情報発信も行っています。

**ツルも安心して過ごせる四万十市を目指して**

ツル(ナベヅル、マナヅル)の越冬地は鹿児島県出水市に集中しており、病気が起こると絶滅につながる可能性があります。そのため、ツルの越冬地を分散させる取り組みが進められており、四万十市も分散地の1つになっています。

四万十川流域では、ツルが安心して過ごせるよう田んぼに水を張るねぐら環境づくりや「四万十ツルの観察マナー」の周知など、さまざまな取り組みを行っています。

その結果、昨シーズンは、3羽のナベヅルが越冬しました。

今後も引き続き取り組みを進めていきますので、ご協力をお願いします。



**問い合わせ先**  
四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局(中村河川国道事務所)  
☎(34)7306 ✉skr-nakama45@mlit.go.jp

四万十ツルの観察マナー(PDF)

広報しまんと2024年11月号掲載記事

**今年も四万十市にツルが飛来しました。**

ツル(ナベヅル、マナヅル)の越冬地は鹿児島県出水市に集中しており、病気が起こると絶滅につながる可能性があります。そのため、ツルの越冬地を分散させる取り組みが進められており、四万十市も分散地の1つになっています。

四万十川流域では、ツルが安心して過ごせるよう田んぼに水を張るねぐら環境づくりや「四万十ツルの観察マナー」の周知など、さまざまな取り組みを行っています。

令和6年も、新聞、テレビで報道されているとおり、四万十市にツルが飛来しました。

今後も引き続き取り組みを進めていきますので、ご協力をお願いします。



**問い合わせ先**  
四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局(中村河川国道事務所)  
Tel : 0880-34-7306  
Mail : skr-nakama45@mlit.go.jp

四万十市ウェブサイト掲載記事

四万十市における見守り活動実施の参考とするため、2024年11月14日に、先行的に取り組む愛媛県西予市への視察を実施しました。



西予市内で活動するメンバーからの取組説明



視察後に実施された意見交換会

## 取組内容：理解と関心の醸成

四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組を啓発するために、高知県立のいち動物公園や四万十市内で開催されたイベント会場でパネル展・羽ばたく折り鶴体験を実施しました。また、ツルカードを作製し、参加者に配布しました。



高知県立のいち動物公園でのパネル等展示



たのしまんとリバーフェスティバルでの折り鶴体験ブース



ツルカード

また、四万十川・中筋川流域がツル類の飛来する貴重な環境であることやツルの里づくりの取組を知ってもらうため、毎年「四万十つるの里祭り」（主催：四万十つるの里づくりの会）を開催しています。四万十つるの里祭りでは、四万十市立東中筋小学校の児童によるツルの学習内容の発表やツル観察バスツアーなどが行われます。今年度は、2024年11月30日（土）に「第16回四万十つるの里祭り」が開催されました。祭りの開催に先立ち、11月28日（木）に、地域のコミュニティラジオ局のFMはたらんどの番組内で祭りの開催をPRしていただきました。



中村河川国道事務所の展示ブース



東中筋小学校6年生によるツルの学習発表



ツル観察バスツアー

## コウノトリを契機とした鳴門市の取組について



第7回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 鳴門市資料

## 鳴門市の概要(1)立地



豊かな食財「なると金時」「れんこん」  
「梨」「鮮魚」「鳴門わかめ」・・・

鳴門市は、神戸淡路鳴門自動車道を経て京阪神地域からの四国側の玄関口となっている。

市内には、県内屈指の観光施設「渦の道」「大塚国際美術館」やJリーグ・徳島ヴォルティスのホームスタジアム、また、西部地区には四国八十八ヶ所霊場の1番札所2番札所、第九アジア初演に関する展示を行っているドイツ館等がある。

### 鳴門市管内図



# 鳴門市の概要(2)多様な観光資源+食



ヴォルタクン ティスちゃん

# 鳴門市のコウノトリたち

大津西小学校  
の児童が命名



令和 6 年 生まれ



父親 ゆうひ  
【オス】  
識別番号 J0044  
2011年生  
兵庫県豊岡市出身



母親 あさひ  
【メス】  
識別番号 J0480  
2013生  
兵庫県朝来市出身



幸(こう)  
【オス】  
識別番号 J0705



陽(よう)  
【オス】  
識別番号 J0706



凧(なぎ)  
【メス】  
識別番号 J0707



結(ゆう)  
【メス】  
識別番号 J0708

# 鳴門市のコウノトリたち

令和 6 年生まれ

大津西小学校の生徒が命名



幸(こう)【オス】  
識別番号 J0705

陽(よう)【オス】  
識別番号 J0706

凧(なぎ)【メス】  
識別番号 J0707

結(ゆう)【メス】  
識別番号 J0708

令和 5 年生まれ

堀江北小学校の生徒が命名



はる【メス】  
識別番号 J0509

月(つき)【メス】  
識別番号 J0510

碧(あお)【オス】  
識別番号 J0511

令和 4 年生まれ

板東小学校の生徒が命名



爽(そう)【オス】  
識別番号 J0418

大(だい)【オス】  
識別番号 J0419

なみ【メス】  
識別番号 J0420

令和 3 年生まれ

堀江南小学校の生徒が命名



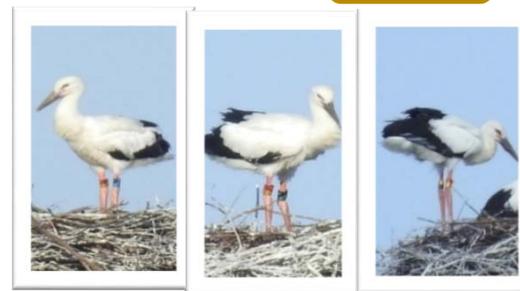
えがお【メス】  
識別番号 J0346

にじ【メス】  
識別番号 J0347

花(はな)【メス】  
識別番号 J0348

令和 2 年生まれ

一般公募



渦(うず)【オス】  
識別番号 J0278

めい【メス】  
識別番号 J0279

海(かい)【オス】  
識別番号 J0280

令和元年生まれ

大麻中学校の生徒が命名



藍(あい)【メス】  
識別番号 J0223

令(れい)【オス】  
識別番号 J0224

和(かず)【メス】  
識別番号 J0225

平成30年生まれ

一般公募



歌(うた)【メス】  
識別番号 J0181

百(もも)【メス】  
識別番号 J0182

平成29年生まれ

一般公募



蓮(れん)【オス】  
識別番号 J0140

なる【オス】  
識別番号 J0141

あさ【メス】  
識別番号 J0142

## コウノトリブランド認証制度



### ◎商標登録

ブランド名：  
コウノトリおもてなし

「コウノトリおもてなしレンコン」の出荷を開始。平成29年

9月



### 登録商標の区分

- (1)第29類  
冷凍野菜・加工野菜及び加工果実・カレー・シチュー  
又はスープの素・お茶漬けのり・ふりかけ・なめ物
- (2)第30類  
茶・菓子等・穀物の加工品・米・食用粉類等・調味料
- (3)第31類  
野菜・果実
- (4)第33類  
清酒

### 当面の目標

- (1)出荷量を増量する。
- (2)仕向先(市場)を増やす。
- (3)れんこんを活用した新たな商品の認証主体の拡大を目指す。
- (4)新たな品目として「米」の認証への研究を進める。
- (5)エコファーマー・特別栽培の推進(板東地区→堀江地区・大津地区まで拡大)

# コウノトリをテーマとした経済循環・活動拠点の構築

## 農産物直売所「えがお」



自然環境や食の大切さを伝える体験型食育



現地(レンコン田等)でのフィールドワーク観察会やサイクリングとの連動



通常の産直施設 + α の魅力



コウノトリおもてなしれんこん(生鮮)



れんこん薬膳粥



れんこんカレー

# 道の駅整備事業について(ゲートウェイ構想)



# 令和5年 鳴門市民ギャラリーにて展示(市役所庁舎内)



特別住民票		徳島県鳴門市	特別個人番号	24
氏名	陽(よう)			
性別	オス			
住所	徳島県鳴門市大麻町萩原			
生年月日	令和6年4月13日			
識別番号	J0706			
プロフィール	太陽の様に明るく元気に育ってほしい、という思いから大津西小学校の児童1名が名付けてくれました。令和6年5月24日に初めて計測された際の体重は5295gの元気な男の子です。			

この住民票は、「陽」を特別に住民登録し、これを記念して発行するものです。  
(その他の目的には使用できません)

令和6年6月18日 鳴門市長 泉 理彦 



ご清聴ありがとうございました。

徳島県 鳴門市

## 徳島県阿南市での関連する取組

---

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

## 徳島県阿南市

徳島県阿南市では、四国の市町村としては初となる「生物多様性地域戦略」を策定するとともに、戦略を推進する組織として「生物多様性あなん戦略推進協議会」を設立しています。また、生物多様性に関する普及啓発を行っています。

### 【計画の策定・協議会の設立】

#### ◆「生物多様性あなん戦略」の策定

・阿南市では、生物多様性保全と持続可能な利用の重要性を浸透させ、市民、事業者、民間団体、行政など様々な取組を進めるため、阿南工業高等専門学校と連携協力のもと「生物多様性あなん戦略」を2019年11月に策定しています。

【取組主体：阿南市、阿南工業高等専門学校】

#### ◆「生物多様性あなん戦略推進協議会」の設立

・「生物多様性あなん戦略」を推進する組織として「生物多様性あなん戦略推進協議会」を2020年2月に設立しています。

【取組主体：阿南市、阿南工業高等専門学校】

### 【地域・人づくり】

#### ◆「阿南市生物多様性ホットスポット」の普及啓発

・阿南市では、2015年に阿南市の豊かな自然を守るために、みんなで守りたいすばらしい自然を「阿南市生物多様性ホットスポット」として6箇所を選定しており、パンフレット等で市民への普及啓発を行っています。

【取組主体：阿南市】



「生物多様性あなん戦略」



「阿南市生物多様性ホットスポット」  
のパンフレット

## 徳島県阿南市

### 2024年度の取組

那賀川水系流域にて、子どもを対象とした環境学習及び環境保全啓発ポスターの募集をすることを通じ、阿南市の豊かな自然を守り活用する環境保全啓発事業を実施しています。

#### ◆こどもエコクラブの実施

2024年7月4日に、小学校4年生72名を対象とし、那賀川北岸河口干潟に生活する生物観察などの環境学習を実施しました。(協力:国土交通省、建設環境研究所)

#### ◆阿南市環境保全啓発ポスターの募集

小中学生を対象とし、阿南市の生物多様性ホットスポットの保全・活用をテーマにポスター募集を行いました。

#### ◆「阿南市生物多様性フォーラム」の開催

2025年2月15日に第12回阿南市生物多様性フォーラムの開催いたしました。

【取組主体:阿南市、阿南工業高等専門学校】



「こどもエコクラブ」生物観察



阿南市環境保全啓発ポスター応募作品

## 香川県三豊市での関連する取組

---

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

## 香川県三豊市

香川県三豊市では、コウノトリの飛来や生息を契機に、地元のNPOが中心となり、コウノトリの定着に向けた生息環境づくりや監視・啓発等の活動が活発化しています。

### 【生息環境づくり】

#### ◆コウノトリの採食環境の保全・再生

- ・ [ ] でコウノトリの保全活動を行っている、コウノトリを守る会が、休耕田で複数箇所にビオトープを整備し、継続して維持管理を行っています。

【取組主体：コウノトリを守る会】

- ・ コウノトリの繁殖期（2～6月頃）は、[ ] の水位が上がり、採食場としてコウノトリが利用ができなくなります。その期間にコウノトリが利用できる環境を創出するため、これまで周辺で整備維持してきたビオトープに加えて、2021年に休耕田で新たなビオトープ整備を行った。ビオトープ整備は、麻環境保全会と連携し、多面的機能支払交付金の支援を得て実施しました。

【取組主体：コウノトリを守る会、麻環境保全会】



休耕田を活用して創出されたビオトープ



発砲注意の看板

#### ◆コウノトリの営巣環境の創出

- ・ 2017年11月、2024年3月に [ ] で、コウノトリの繁殖用の人工巣塔が、地域住民等の手によって設置されています。

【取組主体：コウノトリを守る会、地域住民】

#### ◆人の利用の調整

- ・ コウノトリを守る会や三豊市によって、啓発看板（観察・撮影についてのマナーや発砲注意等）の設置が行われています。

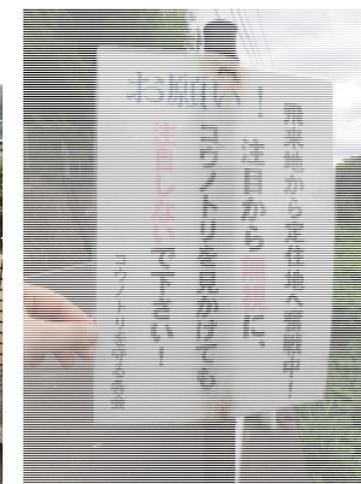
【取組主体：コウノトリを守る会、三豊市】

- ・ コウノトリを守る会によって、コウノトリの観察者やカメラマンへのマナーを呼びかける監視が行われています。

【取組主体：コウノトリを守る会】



ステッカーを掲げた監視車両



観察マナーに関する啓発看板

＼ コウノトリと共生できる ／  
豊かな環境の保存を目指して



希少種情報につき取り扱いにご注意ください



# まんのう町の概要

- ☞ 人口 17,267人(R6.4.1現在)
- ☞ 世帯数 7,482世帯
- ☞ 面積 194.45km<sup>2</sup>(約7割が森林)
- ☞ 高齢化率 約38%
- ☞ 主な産業分類 製造業・建設業・  
医療福祉・農業など



公式キャラクター  
まんテンちゃん



## 【アクセス】



(岡山・愛媛・高知方面)  
高松自動車道・善通寺ICから約20分  
(徳島方面)  
徳島自動車道・美馬ICから約40分



(JR)  
琴平駅からタクシーで10分  
(琴電)  
琴平駅・岡田駅からタクシーで約10分



(高松空港)  
車で約40分

# コウノトリ営巣地位置図

希少種情報につき取扱い注意

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

# まんのう町のコウノトリ



## 親鳥

個体番号	足環	性別	ふ化年月日	出身地	愛称
J0126 (左)	右足:黄黒 左足:黒黄	オス	2016.4.2 (8歳)	兵庫県 豊岡市	—
J0203 (右)	右足:黄青 左足:黒青	メス	2018.5.7 (6歳)	福井県 越前市	こころ



## 2023年(R5)生まれ

個体番号	性別	ふ化年月日	愛称
J0671	オス	2023.5.14 (1歳)	ペコ

※足環は黒地に個体番号を印字



## 2024年(R6)生まれ

個体番号	性別	ふ化年月日	愛称
J0789 (中)	メス	2024.4.30 (0歳)	かりん
J0790 (左)	メス	2024.4.30 (0歳)	こと
J0791 (右)	メス	2024.4.30 (0歳)	みなみ

# これまでの経緯①

● コウノトリの行動 ● 保護活動等

2023(R5)

3月下旬

●  
巣作り開始

4.13

●  
産卵

5.14

●  
ふ化

6.3

●  
講演会  
(日本野鳥の会  
香川県支部主催)

6.19

●  
視察  
(豊岡市)

6.27

●  
足環装着

6.27

●  
巣立ち

7.18

●  
意見交換会  
(地元、日本野鳥の会  
香川県支部等)  
※以降、必要に応じて開催

8.10

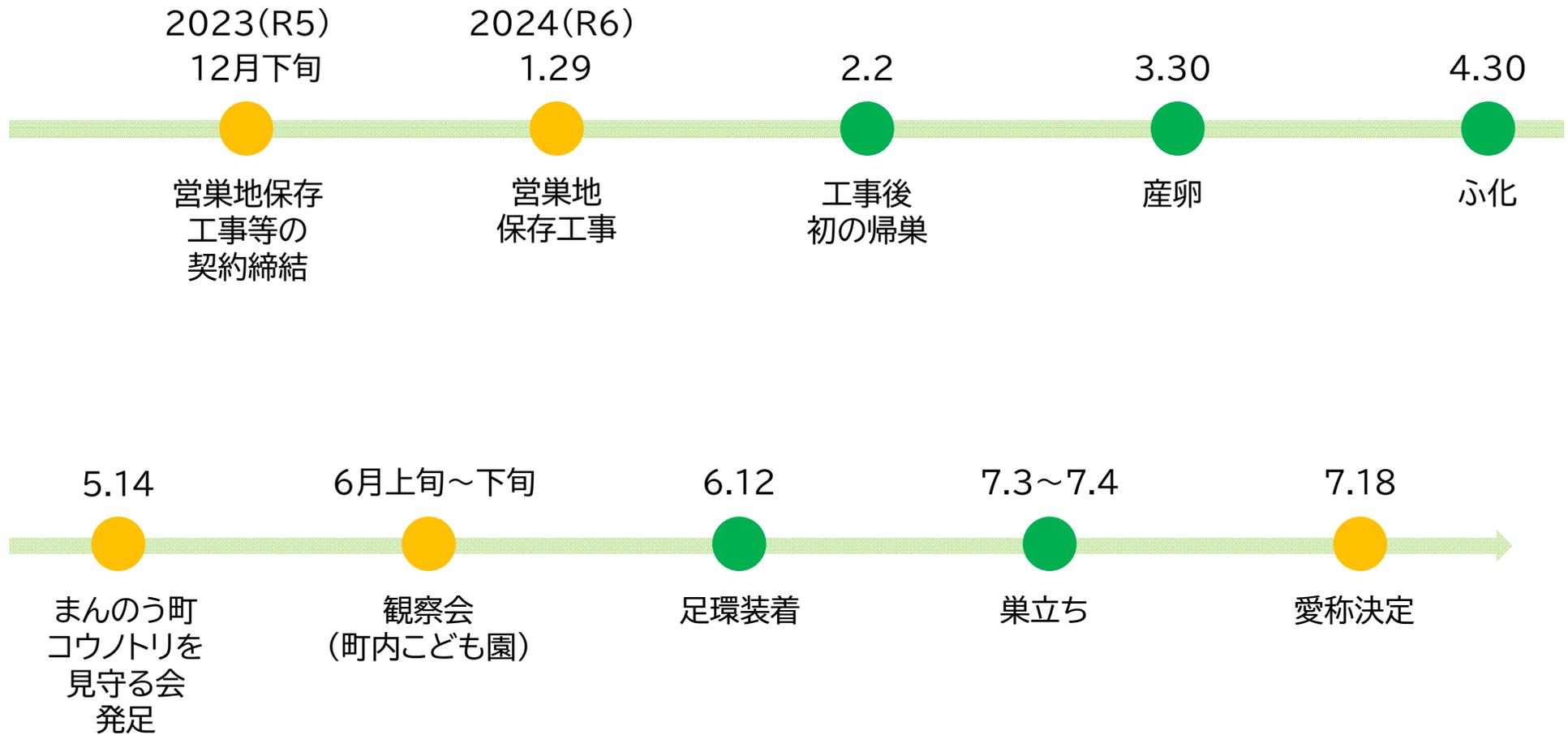
●  
営巣地の保存に  
ついて関係者と  
協議を開始

10.14

●  
講演会

## これまでの経緯②

● コウノトリの行動 ● 保護活動等

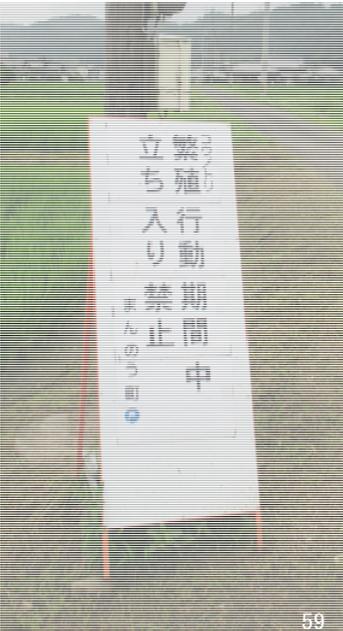


# 取組内容① 観察者への対応

希少種情報につき取扱い注意

- 地元住民や日本野鳥の会による現地パトロール  
地元住民や日本野鳥の会香川県支部の会員が自主的にパトロールを実施。
- 営巣地付近の立ち入りを制限  
営巣地付近は、地元住民や関係者以外の立ち入りを制限し、観察場所を指定。  
看板やチラシ等を設置し、観察者へ対し周知を図った。

希少種情報につき、委員のみ



## 取組内容② 営巣地の保存

### ● 営巣地を保存するため、電柱を人工巣塔化(R6. 1月)

営巣地が電柱上であったため、電力会社や電話会社と協議を重ねた結果、電柱を町が買い取り人工巣塔化するための工事を実施(香川県の補助金あり)。



#### 【工事概要】

巣の下に支えとなる金具を設置し、周辺の電線を切断。工事により影響する周辺住宅へ、他の電柱から迂回させ送電するための工事を併せて実施。

#### POINT !

営巣地が、一時的に通電を止めることが可能な電柱上であった。また、周辺住宅への通電を他から迂回させることができたため工事を実施できた。

## 取組内容③ 観察会

### ● こども園を対象に観察会を開催(R6.6月)

子どもたちにコウノトリに興味を持ってもらい、コウノトリが繁殖できるほどの素晴らしい自然環境が整っているまんのう町の魅力を感じてもらおうと、観察会を開催。開催にあたり、日本野鳥の会香川県支部の協力を得た。



#### 【内容】

- 望遠鏡や双眼鏡、カメラに接続したモニターによるコウノトリの観察。
- コウノトリの生態や足環による見分け方について手作りの模型や写真等を使用して説明。

#### 【こども園からの感想】

- 普段なかなか経験できない貴重な体験ができました。
- コウノトリのお面や羽を作って遊んだり、園庭の木の枝を集めてコウノトリの巣を作ったり、年中・年少クラスの友達に教えてあげようとしていたり、コウノトリに夢中です。
- 保護者が迎えに来ると、自分が経験したことを、懸命に伝える子どもの姿がありました。

# 取組内容④ その他

## ● まんのう町コウノトリを見守る会を発足(R6.5.14)

まんのう町において、多様な主体が連携・協働しながらコウノトリを見守るとともにコウノトリが生存できる豊かな環境を保存することを目的として見守る会を発足。会は、地元住民や日本野鳥の会香川県支部の会員を中心に組織し、見守り活動や啓発活動に取り組んでいる。

## ● ヒナの愛称を募集(R6より)

まんのう町内において誕生したコウノトリに愛着を持ってもらい、優しく見守ってほしいとの思いから、愛称の募集を実施。町内こども園及び地元小学校を対象に募集し、見守る会にて愛称を決定した。

## ● 町広報誌にて啓発活動(R6.9月号)

町民にコウノトリの紹介及び観察時のマナーを周知するとともに、コウノトリが繁殖できる自然豊かな町に誇りを持ってもらい、この環境を保存していくことの大切さを伝えるため広報誌にて特集記事を掲載。



# 今後の課題

## ● 観察者のマナー向上

- 多くの観察者はマナーを守ってコウノトリを観察してもらえるが、一部に悪質な観察者が見られる(巣の付近にドローンを飛行させたケースもあり)。
- 看板やチラシでの周知に加え、メディアの放送においてもマナーについて周知しているが守ってもらえない。
- 見守る会のメンバーが自主的にパトロール等を実施しているが、聞いてもらえないケースや一転して高圧的な態度をとるケースもある。
- パトロールの人数も限られており、また猛暑の中での活動ともなっており、今後の見守り活動について検討していく必要が生じている。

## ● 環境保全活動の啓発

- コウノトリを通じて、まんのう町のすばらしい自然環境に関心を持ってもらい、この自然環境を保全していく意識を啓発するための活動を推進していく。
- 今年度から取り組んでいるこども園向けの観察会に加え、小中学生や大人にも体験できる取り組みを今後検討していく。



## 愛媛県西条市での関連する取組

---



## 西条市の地形①

希少種情報につき、委員のみ

西条市は、加茂川の源流から、河口に至るまでの流域が1つの行政区で完結している、日本の中でも珍しい地形を有しています。



### 西条市の地形②



中山川と加茂川河口に発達した加茂川河口西の干潟は、317ヘクタールで県下の干潟全体の44.9%を占めています。この干潟は**県内最大**で、河口干潟としては**全国でも6番目**の大きさです。

環境省の日本の**重要湿地500**として選ばれており、1989年に当時のIWRB（国際水禽・湿地調査局）日本委員会がまとめた水鳥の生息地であり国際的に重要な湿地として、この加茂川河口及び黒瀬ダムが選定されています。

他にもBird life internationalが選定している**重要鳥類生息地（IBA）**として石鎚山系及び加茂川河口が選ばれています。



## 西条市において確認されたツル類

- ・ ナベヅル
- ・ マナヅル
- ・ ソデグロヅル



希少種情報につき、委員のみ

令和6年度に確認された  
ナベヅル（2羽）

主に**加茂川**、**中山川**とその周辺で確認されています。

## 西条市において確認されたコウノトリ類

平成30年10月以降、1羽のコウノトリが継続して観察されていました。

希少種情報につき、委員のみ



## 参考：西条市において確認されたオオハクチョウ

令和6年12月に、合計**4羽**のオオハクチョウの飛来を確認しています。

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

オオハクチョウ確認場所



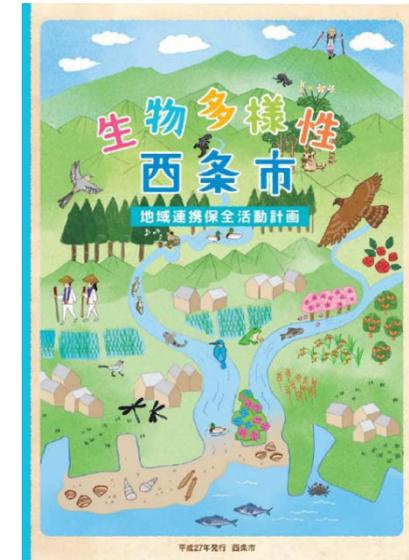
### 西条市で行われている取組

愛媛県西条市では、ツル類やコウノトリに特化した取り組みは行っていませんが、自然を守るため、地下水を守るため、様々な取り組みを行っています。

#### 「生物多様性西条市地域連携保全活動計画」の普及啓発

2015年に策定した「生物多様性西条市地域連携保全活動計画」で、ツル類の保全を盛り込んでいます。計画では加茂川河口域を重点保全地区に設定し、現状維持を目標としています。計画は西条市のウェブページで公開され、市民への普及啓発が行われています。

【取組主体】西条市



「生物多様性西条市地域連携保全活動計画」

#### 地下水保全協議会の設置

水循環の保全、地下水の保全、涵養及び有効活用について、市民、事業者及び行政が深い理解と連携協働の下、市内全域を一律に保全管理するための方策等を検討、協議することを目的発足した。

- ・地下水涵養分科会の設置を行い、休耕田等湛水の実施可能性の検証を行うこととしている。
- ・地下水のパフレット作成

【取組主体】西条市、地域住民、地域事業者





# 西条市で行われている取組

愛媛県西条市では、ツル類やコウノトリに特化した取り組みは行っていませんが、自然を守るため、地下水を守るため、様々な取り組みを行っています。

## 調査結果

### 自然体験・環境教育の推進

コウノトリ・ツル類の飛来が確認されている加茂川河口において、子供達を対象に定期的に自然観察会を行っています。今年度は9月14日に加茂川河口の生きもの調査を開催しました。

	表層(S)		底土中(B)		合計(S+B)	
	発見班数	発見率(%)	発見班数	発見率(%)	発見率(%)	優占度
<b>軟体動物門(腹足類)</b>						
インマキガイ	1	10	1	10	20	++
フトヘナタリ	6	60	1	10	60	++
ヘナタリ	1	10	1	10	10	+
カワアイ	9	90	4	40	90	+++
ウミナ	1	10	0	0	10	+
<b>軟体動物門(二枚貝類)</b>						
サビシラトリ	0	0	1	10	10	+
ニッコウガイ科の複数種	0	0	4	40	40	++
オキシジミ	0	0	2	20	20	++
ソトオリガイ	0	0	2	20	20	++
<b>環形動物門(多毛類)</b>						
ヤマトキョウステロリ	0	0	1	10	10	+
チロリ科 Glycera属	0	0	1	10	10	+
ヤマトカワゴカイ	0	0	1	10	10	+
<b>節足動物</b>						
ニホンドロクダムシ	2	20	2	20	30	++
コビナガスズエビ	0	0	1	10	10	+
イソテッポウエビ類	0	0	2	20	20	++
ハサミシヤコエビ	0	0	8	80	80	+++
ニホンスナモグリ	0	0	4	40	40	++
ヨコヤアナジャコ	0	0	1	10	10	+
コビナガホンヤドカリ	4	40	2	20	50	++
ケブサイソガニ	1	10	0	0	10	+
ハマガニ	2	20	0	0	20	++
アシハラガニ	7	70	3	30	100	+++
ヒメアシハラガニ	6	60	8	80	100	+++
アカテガニ	2	20	0	0	20	++
カクベンケイガニ	2	20	0	0	20	++
ユビアカベンケイガニ	5	50	2	20	60	++
フタハカクガニ	3	30	1	10	40	++
ハクセンシオナメキ	0	0	1	10	10	+
チゴガニ	6	60	10	100	100	+++
ヤマトオサガニ	1	10	8	80	80	+++
アリアケモドキ	1	10	0	0	10	+
<b>その他</b>						
トビハゼ	8	80	3	30	80	+++
アベハゼ	0	0	1	10	10	+
ハゼ科の一種	0	0	1	10	10	+
双翅目の幼虫	0	0	1	10	10	+



調査地域: 加茂川左岸 嘉母神社前  
 調査日時: 2024年 9月 14日 13:00~15:00  
 10班(ひと班2~3名)で実施  
 合計(S+B)は、SとBを区別せずに集計した発見率(何班が発見できたか)  
 優占度: +++優占種(発見率70%以上)  
 ++普通種(70%未満、10%あるいは発見者数2以上)  
 +少数種(10%未満あるいは1班だけの発見)

## 愛媛県西予市での関連する取組

---

## 愛媛県西予市

愛媛県南部に位置し、豊かな緑に覆われた美しい山々と、青く深く広がる海、広大な大地の中で、多彩な自然を持ち合わせている西予市は、2013年9月にジオパークに認定されています。また、海拔0mから1,400mと恵まれた地形の中で、本州の農産物を全て取ることが出来るのも魅力の一つです。



須崎海岸



宇和盆地



リアス海岸 みかんの段畑



大野ヶ原（四国カルスト）

# 西予市の保護活動の始まり

- 西予市では平成18年から国の特別天然記念物であるコウノトリが飛来するようになり、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類、種の保存法の国際希少野生動植物種に指定されているナベヅルやマナヅルの飛来も見られるようになってきました。
- そのような中、いずれも希少種であることから、地域住民から保全・保護の声が高まり、市の諮問で平成21年度に有識者や地元住民らによる「ツルと人の共生創造委員会」が設立され、その保全・保護の方針に関わる答申書を経て、平成22年度に田園ロマンの里づくり推進委員会設置要綱を策定し、ツルやコウノトリが飛来する地域の代表者や環境保護に関する活動を行うもの、農業団体関係者、学識経験者を含む委員会を設置しました。

平成21年 ツルと人の共生創造委員会による答申により、ツル・コウノトリを保全してくこととなった。

平成22年 田園ロマンの里づくり推進委員会設置以降、推進委員会を中心に、保護活動を実施。

## 協力団体

行政	西予市
市民団体	ツル・コウノトリと共生する山田の会 宇和コウノトリ保存会 伊賀上ロマンの里づくり会 一般社団法人ノヤマカンパニー 公益財団日本野鳥の会 日本野鳥の会愛媛
大学	愛媛大学社会共創学部
学校	石城小学校
企業	株式会社四電工

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

## 愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

### 【計画の策定】 令和2年度～

#### ◆「西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」

- ・西予市では、ツル・コウノトリと共生するまちづくりを目指し、「西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」の策定に向けた検討を進めています。  
令和4年4月に基本構想（ビジョン）が完成し、実行計画を作成中。

#### 【取組主体】

愛媛大学、西予市



令和6年度 策定委員会の様子

### 【生息環境づくり】

#### ◆コウノトリの営巣環境の創出

- ・コウノトリの繁殖用の人工巣塔（地域住民や企業の協力のもと西予市宇和町3か所に計4基）が設置されています。  
これらの巣塔は、毎年10月頃に株式会社四電工より無償で点検作業を行っていただいています。

#### 【取組主体】

宇和コウノトリ保存会、コウノトリ・ツルと共生する山田の会



(株)四電工による巣塔点検の様子

## 愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

### 【生息環境づくり】

#### ◆ツル類のねぐら環境の保全・再生

- ・地域団地により、町内のビオトープの保全をはじめ、田んぼでの冬期湛水や、ツル類を呼び込むためにデコイの設置、ツルの鳴き声を流す取組等が行われています。
  - ・また、周囲は有害鳥獣用の防護柵により安全性を確保するとともに、監視カメラを設置し、日本野鳥の会愛媛、西予市と映像の確認を行っています。
- ⇒ここ数年は安定して、同じ場所をねぐらとして利用している。

#### 【取組主体】

宇和コウノトリ保存会、コウノトリ・ツルと共生する山田の会、日本野鳥の会愛媛、西予市

#### ◆ツル渡来重点エリアの設置

- ・採食場の環境整備の一環として、主な採食場となる圃場があるエリアをツル渡来重点エリアとして設定し、渡来時期には農作業等のやむを得ない場合を除いて、なるべく通行をご遠慮いただくようお願いしています。

#### 【取組主体】

西予市、地域住民



デコイ設置の様子



渡来重点エリア看板設置の様子

## 愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

### 【地域・人づくり】

#### ◆自然体験、環境教育の推進

- ・日本野鳥の会愛媛、西予市の共催で、地元石城小学校においてツル・コウノトリに関連した環境学習として、年数回にわたり、ビオトープや田んぼでの生き物観察、ツル類の観察会、デコイ設置体験等を実施しています。
- ・ツルを通じて、西予市の石城小学校と山口県周南市の八代小学校・高知県四万十市の東中筋小学校との交流が行われました。

また、今年度は地元石城保育園において園児を対象にツル類の観察会を行いました。

#### 【取組主体】

日本野鳥の会愛媛、石城小学校、石城保育園、西予市



石城小学校 ビオトープでの生き物観察会の様子



石城保育園 ツルの観察会の様子

# 四万十市での関連する取り組みについて

第7回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会

令和7年2月26日



# 四万十市におけるツル類の歴史と飛来分布

希少種情報につき  
取扱い注意

1

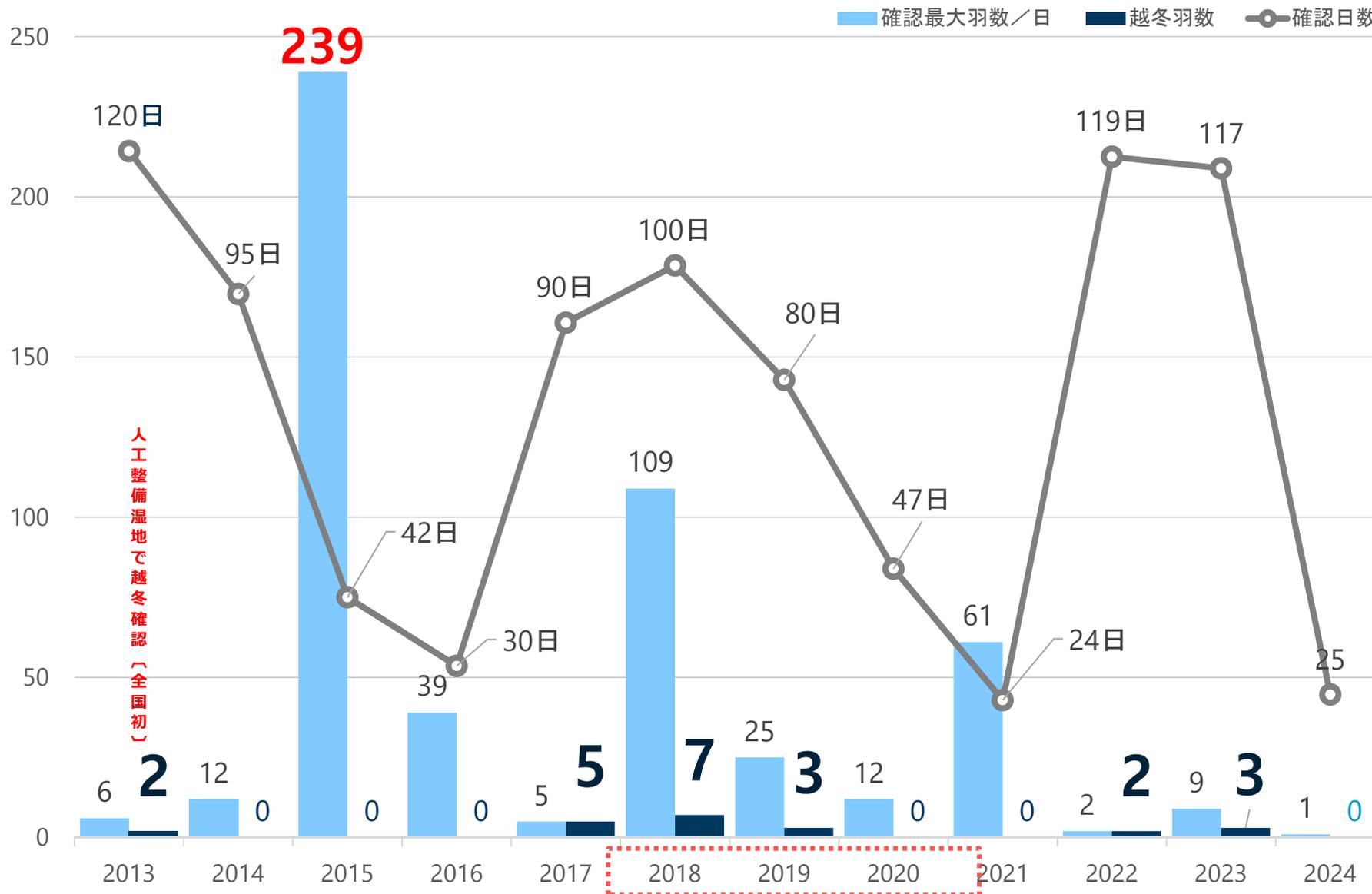
四国の西南地域に位置する四万十市において、主に飛来するツルはナベヅルとマナヅル、シベリアなどから越冬のためにやってきます。中筋川流域に広がる中筋平野が主な飛来地となっており、主なえさ場は森沢地区や江ノ村地区の田んぼで、四万十川流域の砂州などを主なねぐらとしています。



希少種情報につき、委員のみ

# 近年における飛来状況

図表 1 ツル類の確認最大数・越冬数・確認日数の推移〔直近10年〕



# 史上最大数が飛来した2015年

希少種情報につき取扱い注意

3

希少種情報につき、委員のみ

提供：四万十つるの里づくりの会

発砲音に驚き顔を上げ周囲を見渡しながらか警戒している様子

# 昨年度の飛来状況

希少種情報につき取扱い注意

4



希少種情報につき、委員のみ

提供：四万十つるの里づくりの会

# 今年度の飛来状況

希少種情報につき取扱い注意

5



希少種情報につき、委員のみ

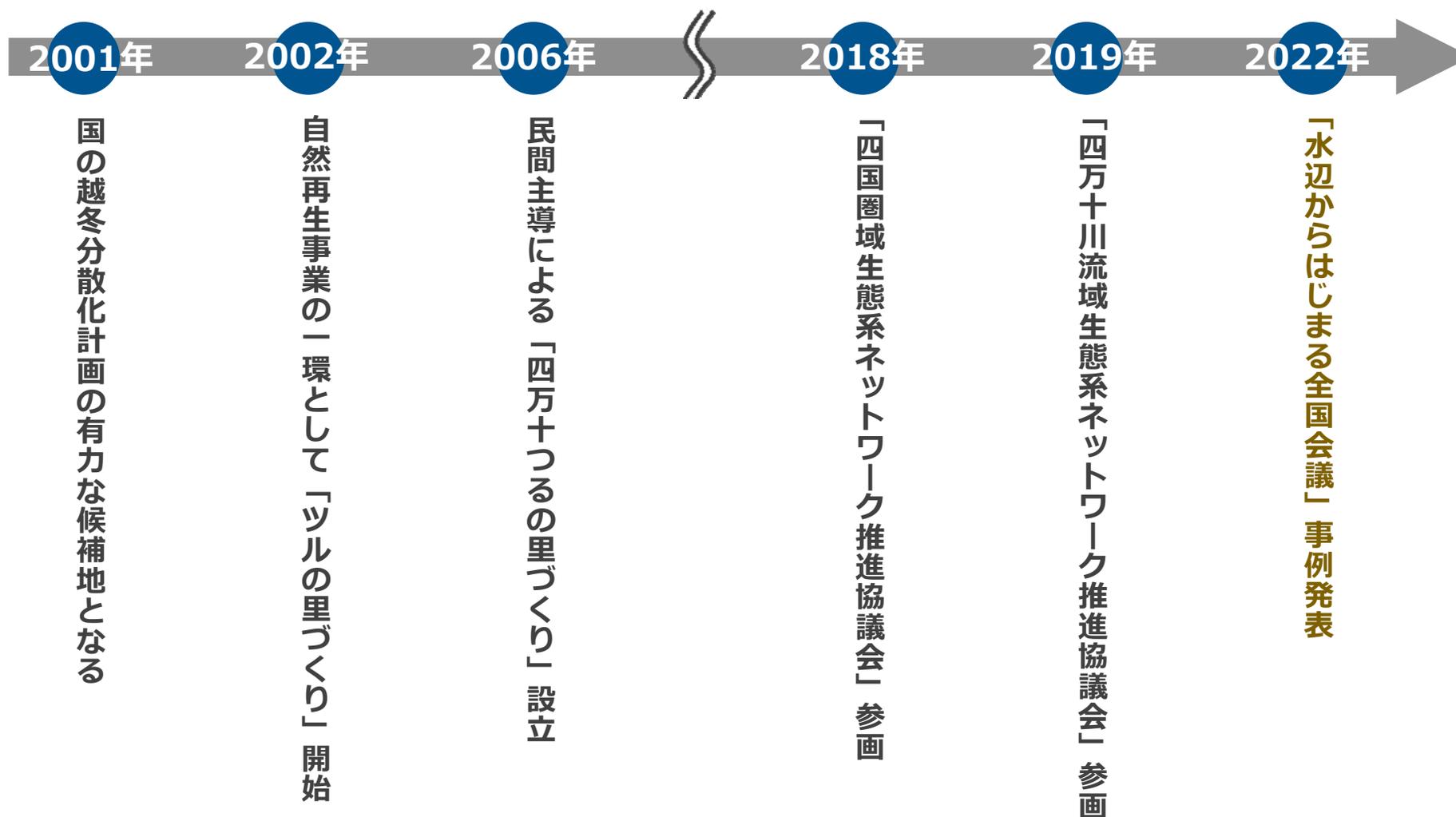
提供：四万十つるの里づくりの会

四万十市に初飛来したナベヅル1羽 [右から2番目]

# 四万十市における取り組みの概要

6

四万十市では、2002年度から国土交通省中村河川国道事務所が推進する自然再生事業の一環として、ツル類の越冬地環境の整備を目標とする「ツルの里づくり」が始まりました。2006年に民間主導で「四万十つるの里づくりの会」が設立され、周辺の自然環境の保全・整備を促進し、地域の活性化を目的として、関係主体の連携した取り組みが続けられています。



# 生育環境づくりに関する取り組み

## 1. 採食環境の保全・再生

中筋川の自然再生事業箇所（中山箇所と間箇所）について、ツル類の採食地となるよう、中村河川国道事務所により、継続して維持管理がおこなわれています。

取組主体→国土交通省中村河川国道事務所

## 2. ねぐら環境の保全・再生

中筋川の自然再生事業箇所（中山箇所と間箇所）について、ツル類のねぐら環境となるよう、中村河川国道事務所により、継続して維持管理が行われています。また、2022年度には新たに荒川、蕨岡、実崎の3箇所が加わりました。水を張った田んぼの状態を確認するために、複数個所で自動撮影カメラを設置し、モニタリングをおこなっています。江ノ村、蕨岡、実崎の3箇所はナベツルのデコイを設置しています。

取組主体→国土交通省中村河川国道事務所

江ノ村箇所について、ツル類のねぐら環境となるよう、四万十つるの里づくりの会により、水田での冬期湛水が試行されています。効果を確認するために、中村河川国道事務所により、湛水箇所に自動撮影カメラを設置しモニタリングをおこなっています。

取組主体→四万十つるの里づくりの会・国土交通省中村河川国道事務所

## 3. 人の利用の調整

2021年度に「四万十ツルの観察マナーチラシ」を作成し、地区への回覧により周知を図る取り組みをおこなっています。また、**観察マナーに関する記事を市広報11月号やLineを活用し発信しており**、理解と関心を深めるための取り組みをおこなっています。

取組主体→四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

## 1. 自然体験・環境教育の推進

四万十つるの里づくりの会と中村河川国道事務所が主催で、地元の東中筋小学校の生徒を対象とした「ツルの自然体験学習会」が2024年10月24日に開かれ、学習会では、ツルの生態に関する講義や、屋外でのデコイを設置などがおこなわれています。また、11月25日には現地見学を行っています。

取組主体→四万十つるの里づくりの会・国土交通省中村河川国道事務所



「ツルの自然体験学習会」の様子

## 2. 取り組みの情報発信

今年で**16回目**となる「**四万十つるの里祭り**」が2024年11月30日に開催されました。また、「四万十つるの里祭り」の開催と合わせて、ツルの**観察ツアー**もおこなわれました。

取組主体→四万十つるの里づくりの会・国土交通省中村河川国道事務所

四万十つるの里づくりの会のウェブサイトや会報誌「四万十つるだより（定期発行）」により、四万十市へのツル類の飛来状況や保全に関連する取り組みについての情報発信がおこなわれています。

取組主体→四万十つるの里づくりの会

2024年5月28日から6月30日にわたり、**つるの里づくりを紹介する企画展**が県立のいち動物公園で開催されました。また「**四万十市のツルパネル・写真展**」を5回開催しました。

取組主体→四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会  
四万十つるの里づくりの会



出典：高知県立のいち動物公園ウェブページ

ご清聴ありがとうございました

